No.149
2026.7月1日発行

紫芳会だより　～輝く先輩達～

新しい職業を作りながら生きていく

空想地図作家　**今和泉（いまいずみ） 隆行（たかゆき）氏（高校56期）**

2004年　立川高校卒業
2009年　埼玉大学経済学部卒業
2015年　株式会社地理人研究所 設立

■立高時代

中学時代は飛び抜けて優等生だったわけではないので、在校時は地理と音楽を除いて良い成績を取れた記憶がありません。クラスの人間関係もほどほどの付き合いで、これだけ言うと薄い高校生活だったかのようですが、私の中では大学までの出身校の中では唯一「母校」と言える学校だと思っています。世間や集団の全体感と距離を取っていても居場所があり、個人主義でいられたところ、またそういう風変わりな友人が多数いたことで、自身の生き方を自身で作っていけば良い、と思える原点になっていた気がします。在校時は部活動には入らず、所属は新聞委員会でした。芸術系の授業が音楽、美術、工芸から1つしか選ぶことができなかったのが惜しく、2年次で音楽を選択した上で3年次の自由選択で美術を選択したところ、受講生の半分は美大受験で、美大受験の世界を垣間見ながらも、私は他受験科目からの気分転換で受けていた節があります。そんな調子だったため大学受験の結果はほとんど不合格だったのですが、こうして垣間見た芸術の世界が後に近くなるとは、このときは思ってもみないことでした。

■右往左往する大学・会社員時代

大学は第四志望で専修大学の地理学専攻に入ります。立川高校からならもっと難関校を目指せるという印象はありつつも、私の実力はその程度だろうと早々に見切りをつけて浪人はせずに入学します。ただ、入ってから直面した問題は「地理学専攻で良いのか」ということでした。地理を活かした進路は、社会科教員になるか研究者になるかのどちらかがほとんどで、地図会社はごくわずかです。地理的な知見を活かせるまちづくり方面に就職する人がほとんどいないことに失望し、専攻を変えようと思うに至ります。ついでに学校も変えようと、3年次編入で埼玉大学に入り、まちづくりのゼミに入ります。並行して都市設計コンサルタントのアルバイトを始めますが、業界の厳しさと、一人前になるまでかかる年数が長そうだと感じたこと、大学2校とも合ってない大学を選んだ私はきっと就職活動でも合わない会社を選択するだろうということで、志望業界をリセットし、まずはさまざまな業界が見渡せる会社に一旦入ろうということでIT企業に入ります。やっぱり合ってなかったのですが、さまざまな業界を見渡すことだけは叶えて2年でやめます。そして、これまでの学歴や社歴どころか、学校や会社で学んだこととは全く異なるキャリアが、ここから始まります。

■空想地図作家のはじまり

7～8歳の頃から実在しない都市の地図（空想地図）を描き始め、大学時代は暇をみつけて47都道府県300都市を回って土地勘をつける等していました。空想地図は、当時人に説明しにくい密室趣味だったものの、私は当時から隠しておらず、高校時代の身近な同級生は地図を描いていたことを知っていました。どちらかというと地図に関心がない人に、実際の地図の話や空想地図の話をすることも多かったことが、その後の人生の始まりでした。会社を退職してアルバイトや派遣社員で食いつないでいたとき、トークイベントに呼ばれることが増え、やがて2013年のタモリ倶楽部出演以降は、主にマツコ・デラックスさんの深夜バラエティーに出演する機会が増えた他、同年著書「みんなの空想地図」（白水社）の刊行後は、5冊ほど単著の刊行が続きました。2017年以降は東京都現代美術館をはじめ全国各地の美術館での展示が続き、なろうとしたわけではないのですが、気づいたら作家になっていたのです。

■謎な業態の仕事の内訳

特に起業しようという意気込みもなく、自営業の延長で2015年に法人化しました。テレビドラマの小道具としての地図製作をすることがあり、近年だとTBSドラマ「VIVANT」の地図を製作しました。架空の地図の製作業者というのは日本で、いや世界でうちしかいないような気がします。とはいえオンリーワンな業種というのは、それだけ需要がない、発注がない仕事とも言えます。自分から全く営業しないのも悪いのですが、空想地図の受注製作の仕事は年に1回あるかないかで、他には実在する地域の地図デザイン、大学のゲスト講師、記事執筆、最近始まったものだと高校1年生向けの探究学習の外部講師をしています。地図のスペシャリストは私の他にも多数いますが、地図の基礎知識がない人、興味がない人向けにコミュニケーションできる人となればかなり数は限られます。こうして、相対的に強い強みをかけ合わせることで、オンリーワンの強みを形作ることは可能です。

■立高生のみなさんへ

立川高校を卒業した先輩には優れた大学や会社に進み、社会的な実績を上げる人も多く、とりわけそういった先輩の話こそ取り上げられやすくもあります。もちろんそういった進路を取ることができれば、それを目指してみて下さい。とはいえ私のように、大学受験や就職で成功したとは言えない人もいます。それでもこうしたメッセージを書く機会をいただけたのは、うっかり「好きなことを仕事にしてしまった」からだと思いますが、そうしようと思ったわけではなく、できることとやりたいことを密かにやり続け、できないことをしなかっただけです。納得のいく結果が得られないことも冷静に目を向け、原因を探ったり他者と比較したりすることで、強みと弱みをシビアに自己査定することで、案外気づかない「自分の強み」が見えてくることもあります。立川高校にいがちな、少し風変わりだけどうまく言語化できない同級生、あるいはあなた自身に隠れた強みが、自覚され、やがては社会から認められることは、現実的に叶えられることです。

東京都現代美術館「ひろがる地図」展